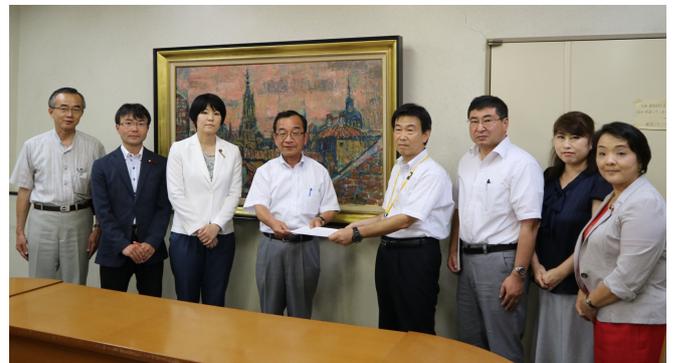
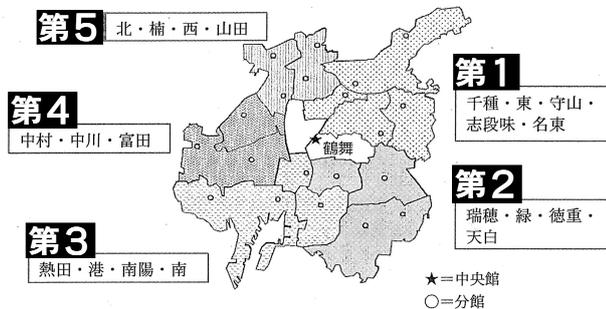


「なごやアクティブ・ライブラリー構想(案)」 1区1図書館をブロックに再編、運営形態に格差

日本共産党市議団は11日、名古屋市教育委員会にたいして、市立図書館のあり方を大改変する「なごやアクティブ・ライブラリー構想(案)」に関する申し入れを行いました。同構想(案)は、今月末にもパブリックコメントを開始し、10月には策定するとされていますが、市民・図書館利用者には説明もされていないことから、申し入れでは、「パブリックコメントの実施を見合わせ、すべての図書館で利用者に対して説明会を開催すること」を求めました。



民間活力の活用を検討するとされています。老朽施設が多い「第一ブロック」から着手。耐震性を満たしていない千種図書館を「Aタイプ」として星ヶ丘駅周辺等に移築し、東・守山・志段味・名東の各館を「B」ないし「C」にする構想です。

市民の平等利用の精神を大切に

これまで名古屋市の図書館は1区1館方式(支所管内にさらに1館)で運営されてきましたが、これを大きく改変する構想です。図書館ごとにサービスや蔵書数の格差を生じさせるものであり、市民の平等利用の精神が損なわれる恐れがあります。こんな重大な構想にもかかわらず、市民が知らないうちにパブコメに付すのは問題です。

5ブロック化 3段階にランク分け

同構想(案)では、中央館(鶴舞図書館)を核として市域を5つのブロックに分け、各ブロック内の図書館(分館)を専門的サービスも担う「Aタイプ」、基礎的サービスを担う「Bタイプ」及び「Cタイプ」の3区分に再編。「B・Cタイプ」は蔵書数を削減し、

などに分類し、それぞれ民間活力の活用を検討するとしていますが、ブロック内における図書館司書配置の集約化や、タイプ構成によって、蔵書の大幅な削減を見込むなど、市内全域の図書館運営体制を根本的に再編するものとなっています。

名古屋市教育委員会は、この構想(案)について、今月末にもパブリックコメントを募集し、10月には策定をめざしていますが、この構想は、地域の図書館にサービスや蔵書数において格差を

生じさせるものであり、本来の図書館が担うべき社会教育施設としての役割と市民の平等利用の精神が損なわれる恐れがあることから、拙速に策定を進めるべきではありません。

そこで、以下の点を申し入れます。

一、「なごやアクティブ・ライブラリー構想(案)」に関しては、パブリックコメントの実施を見合わせ、すべての図書館において利用者に対し、構想(案)についての説明会を開催すること。(以上)

名古屋市教育委員会
教育長 杉崎 正美 様

2017年7月11日
日本共産党名古屋市議員団
団長 田口 一登

「なごやアクティブ・ライブラリー構想(案)」に関する申し入れ

日頃からの教育行政の推進に敬意を表します。

名古屋市教育委員会は、少子高齢化に伴う社会的ニーズの変化や、厳しい財政状況に対応するものとして、図書館サービス網の再構築と運営体制の見直しに関する長期計画「なごやアクティブ・ライブラリー構想(案)」を公表しました。

構想(案)では、鶴舞中央図書館を核に、市域を5ブロックに分割したうえで、それぞれに直営1分館をAタイプとして配置するほかは機能別にBタイプ、Cタイプ